

何でも読もう会

書物名	『或る「小倉日記」伝』 松本清張	開催 日時	2022.11.1	推薦	
巻・章	全編			出席者	7名
<p>芥川賞受賞作を読み比べている。本作品はS27/下半期の受賞。 清張氏と芥川賞では違和感を感じる向きもあろうが、同時受賞は五味康祐氏。 この賞の紆余曲折が感じられる。</p> <p>清張氏が無名時代の作品らしいが、選考委員の先生方からは、既に出来上がっている人との高い評価を得た。</p> <p>その後の清張節につながる文体、事実を手堅く積み上げて全体を構築する手法は天与のものだろうか。</p> <p>作品の主人公は、生来、気の毒なほどの身体不自由者であるが、彼はあるとき小倉時代の鷗外作品に出会って感動、偶々鷗外の『小倉日記』が行方不明になっていることを聞き、その穴埋めに自分で関係者の間を苦心惨憺して聞き回る話である。</p> <p>実話を基にしているらしいが、清張氏の生い立ちや境涯が投影されている佳作との評価であった。</p>					